

すばらしいこの地球を
我々の行動で守ります



環境・労働安全衛生報告書

Environmental, Occupational Health and Safety Report
2014

杏林製薬株式会社

1 ごあいさつ

当社は2013年6月16日に創業90周年を迎えました。これもひとえに皆様方のお陰と厚く御礼を申し上げます。今後も2023年の創業100周年に向けて持続成長に努めてまいります。

さて、環境問題は全人類に共通する問題として世界的な対応が求められ、社会の持続的な発展に向けて省エネ法が改正される等、企業に対する社会からの要請も拡大しています。

さらに労働安全衛生面におきましても、従業員の多様性・人格・個性を尊重しつつ、安全かつ健康的で、働きやすい職場環境の実現が求められます。

当社は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します」という企業理念の下、創業100周年にあたる2023年を見すえた未来像として長期ビジョンHOPE100を策定し、患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる医薬品メーカーを目指して歩みを進めています。

当社の地球環境の保全、労働安全衛生の向上に対する取り組みとしましては、2004年度に環境マネジメントシステムの国際基準であるISO14001、労働安全衛生マネジメントシステムであるOHSAS18001の認証を本社をはじめ、全ての工場、研究事業所、支店・営業所で取得しました。当社では現在、ISO14001とOHSAS18001の双方のシステムを統合し、EHS活動(※)という名の下で、効率的かつ効果的にシステムの運用を図っています。これらの活動は、従業員・関係者全員で着実に取り組むことが重要かつ有意義であり、今後も地球環境の保全、職場の労働安全衛生の向上に積極的に取り組み、社会に貢献する所存です。

今般2013年度の環境保全と労働安全衛生の活動内容を「環境・労働安全衛生報告書」として取りまとめました。本報告書を通して、当社の環境保全・労働安全衛生に対する考え方や活動をご理解いただき、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

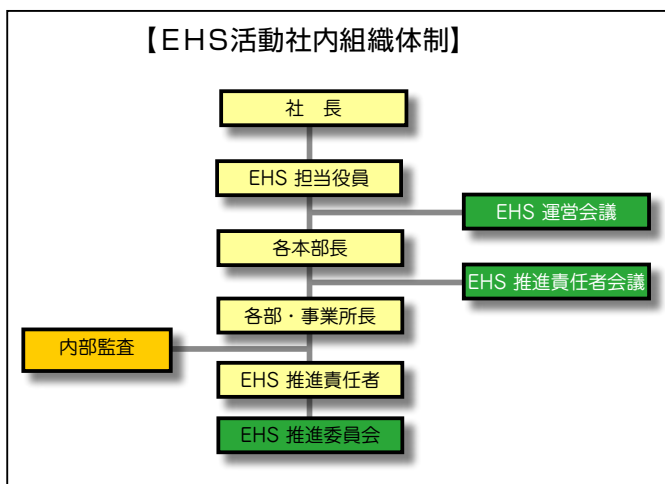
2014年8月

杏林製薬株式会社
代表取締役社長 宮下 三朝



※ EHS : Environment(環境), Health(健康), Safety(安全) の略
当社の社内用語として使用しています。

創 業	大正 1 2 年（1 9 2 3 年）
設 立	昭和 1 5 年（1 9 4 0 年）
資 本 金	4 3 億 1 7 百万円
本社所在地	東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地
従 業 員 数	1, 7 8 0 名
事 業 内 容	医薬品の製造販売
売 上 高	9 7 6 億 6 2 百万円（2 0 1 3 年 4 月～2 0 1 4 年 3 月）
親 会 社	キョーリン製薬ホールディングス株式会社（東証一部上場）
事 業 所	創薬研究所、開発研究所 岡谷工場、能代工場 札幌支店、仙台支店、関越支店、埼玉千葉支店、東京支店、神奈川支店、名古屋支店、大阪支店、京滋北陸支店、兵庫四国支店、広島支店、九州第一支店、九州第二支店（13 支店、87 営業所）



3 報告書目次

1. ごあいさつ	1
2. 会社概要	2
3. 報告書目次（編集方針）	3
4. キョーリン製薬グループ「EHS」方針	4
5. EHS 活動の歩み	5
6. 環境・労働安全衛生に関する報告（2013 年度）	
全社重点目標（2013 年度達成状況）	6
KPI（CO ₂ 削減）と全社における 1 年間の環境との関わり	7
環境に対しての継続的な取り組みと評価	11
7. 事業所別活動報告（2013 年度）	
研究部門の取り組み	12
製造部門の取り組み	15
営業部門の取り組み	18
本社の取り組み	20
働きやすい職場を目指す、全社での取り組み	22
8. 企業の社会的責任	
当社のコンプライアンスとリスク管理に対する取り組み	24
9. 社会貢献活動	
東日本大震災被災地への復興支援	25
社会とのコミュニケーション	26
10. 2014 年度全社重点目標	30
11. マテリアルフローと環境会計	32
12. 環境に関するデータ	33
13. 労災に関するデータ	38

○ 編集方針

- ・ 対 象 期 間： 2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日 活動については直近のものも含みます。
- ・ 参考にしたガイドライン： 環境省「環境報告ガイドライン（2012 年版）」
- ・ 発 行： 2014 年 8 月（前回 2013 年 8 月発行、次回は 2015 年 8 月発行予定）
- ・ 発 行 媒 体： 本報告書は PDF でご覧いただけます。ウェブサイトのみの公開としております。
- ・ 環境・労働安全衛生報告書に関するお問い合わせ先

〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

杏林製薬株式会社 総務部 EHS 担当

TEL: 03-3525-4711 FAX: 03-3525-4722

キョーリン製薬グループは、全ての企業活動において、企業行動憲章に基づき、EHSマネジメントシステムを経営の重要な柱として位置づけ全社で取り組んでいます。

「地球温暖化防止」「資源保護」「自然環境との調和」を重点テーマとする環境保全及び汚染予防に積極的に努めると共に、当社グループに関わる全ての人の「安全」と「健康」の確保を最優先し、労働安全衛生活動を積極的に推進しています。さらには、地域社会と協調しながら社会貢献活動を推進し、社会との共生を実現していきます。当社グループの方針は以下のとおりです。

1. EHSマネジメントシステム

- ① EHS担当役員は、EHS推進責任者を任命し、EHS管理の組織の責任と権限を明確にして、EHS活動の維持向上を推進していきます。
- ② 環境マネジメントシステム(ISO14001)及び労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を十分に認識し、計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、改善(Action)のサイクルを半永久的に回していくことによって、継続的にEHSの改善活動を行い、EHSマネジメントシステムを確立していきます。
- ③ 本方針及び目標を達成するために、積極的にEHS活動の推進体制を準備します。
- ④ 組織に関わる人がEHS活動を理解し、自覚を持った行動ができるよう教育・訓練を実施します。

2. 環境保全への取り組み

地球環境保護を実践するため、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、化学物質の管理強化など環境負荷物質の削減と、限りある資源の有効利用を推進し、目的・目標の設定と見直しを都度行い、当社グループに関わる全ての人と積極的な活動に努めていきます。

3. 安全と健康への取り組み

継続的な安全衛生管理を自主的に進めることにより、労働災害の防止と働く全ての人たちの健康増進、さらに進んで快適な職場環境を形成し、労働災害ゼロを目指した安全衛生水準の向上に努めていきます。

4. 内部監査

EHS活動が適切に実施されていることを確認し、その実施状況を評価する内部監査システムを整えていきます。本方針を達成するための活動計画の進捗状況確認やシステムの運用、法令遵守等のチェックを行い、業務活動の継続的改善に努めていきます。

5. 情報の開示

ステークホルダーとの適切なコミュニケーションを行い、環境保全活動や労働安全衛生活動への取り組み内容を積極的かつ公正に開示していきます。

2012年4月1日

キョーリン製薬グループ
EHS担当役員

松本 臣 春

※ EHS とは環境・労働安全衛生の意味で、E = Environment, H = Health and S = Safety の略。

実施年	環境関係	労働安全衛生関係
1998 年	生産部で環境活動方針をとりあげる	
1999 年	ダイエット 30 作戦開始 野木工場 ISO14001 認証登録	
2000 年	焼却炉全廃 行動憲章・社員行動指針の制定 岡谷工場 ISO14001 認証登録	
2001 年	能代工場 ISO14001 認証登録	労働安全衛生マネジメントプログラム導入検討
2002 年	諏訪湖アダプトプログラム参加 ※ 諏訪湖畔の一定区間を受持ち、美化活動を行う活動 栃木県保険衛生学会表彰 「環境への取り組み」 創薬研究所、研究センター ISO14001 審査登録に向け取り組み開始	3 工場 OHSAS18001 審査登録に向け 取り組み開始
2003 年	創薬研究所、研究センター BSI ジャパンによる審査受審 ISO14001 認証登録 営業部門、本社 ISO14001 認証登録に向け取り組み開始	3 工場 BSI ジャパンによる審査受審 OHSAS18001 認証登録 創薬研究所、研究センター OHSAS18001 審査登録に向け取り組み開始 営業部門、本社 OHSAS18001 認証登録に向け取り組み開始
2004 年	営業部門、本社を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証登録	本社、研究事業所、営業部門を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で OHSAS18001 認証登録
2005 年	ISO14001・OHSAS18001 両システムの統合、全社として BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証更新、OHSAS18001 認証継続 2006 年 3 月野木工場閉鎖（機能は全て能代工場に移管）	
2006 年	ISO14001(2004 年版) 規格へ切替とあわせ認証継続及び OHSAS18001 認証更新	
2007 年	グループ会社（キョーリンリメディオ井波事業所）への ISO14001 認証取得支援開始	
2008 年	グループ会社（キョーリンリメディオ井波事業所）への ISO14001 認証取得支援・OHSAS18001 認証取得支援開始	
2009～2013 年	全社で ISO14001 認証継続、OHSAS18001 認証継続	

【 ISO14001（環境マネジメントシステム）認証登録証】



【 OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）認証登録証】



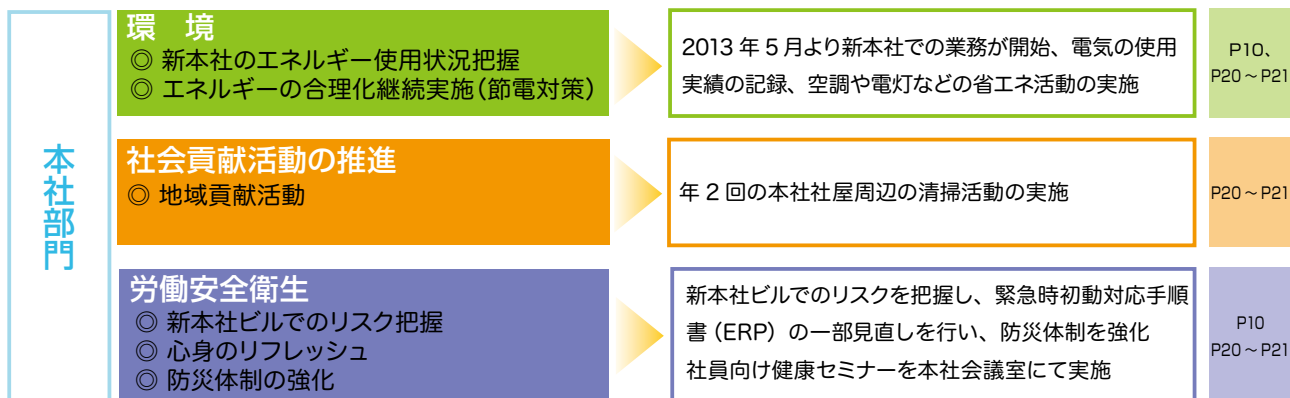
全社重点目標 (2013 年度の結果及び主な状況)

2013 年度
重点目標

スローガン: EHS - HOPE100

杏林製薬(キョーリン製薬グループ)を永続的に堅実で健全な企業として
成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

	重点目標	結果及び主な状況	記載頁
全社目標	環 境 ◎ エネルギー合理化 CO ₂ 排出削減 (KPI) 2015 年度までの目標: 対 2009 年度比 25% 減 * 2013 年度は 17,579 t 以下の CO ₂ 排出量を目標とします。 ◎ クリーンエネルギーの導入の検討 ◎ 廃棄物の削減	2013 年度CO ₂ 排出量: 17,919 t ☆トピックス参照 クリーンエネルギーについては情報収集と評価を実施 工場・研究所を中心にリサイクルなどに取り組み、廃棄物を削減 2013 年度廃棄物量: 761 t 最終処分量 31 t 最終処分率 4.1%	P7 ~ P8
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	継続的な地域貢献活動、周辺住民の皆様とのコミュニケーションを図るため各種イベントを各事業所で予定通り実施	P8
	労働安全衛生 ◎ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	全社で 3 件の労働災害が発生し、うち 1 件が休業を伴う労働災害	P8 ~ P9
製造部門 研究開発部門	環 境 ◎ CO ₂ 削減策の検討と実行 ◎ 廃棄物の削減 最終処分率 5% 以下	2013 年度CO ₂ 排出量: 16,607 t 2013 年度廃 棄 物 量: 761 t 最終処分量 31 t 最終処分率 4.1%	P9、 P12 ~ P17
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動の推進 ◎ 周辺住民とのコミュニケーション	周辺住民の皆様をご招待して観桜会、納涼会実施 地域への清掃活動などを通じての社会貢献活動を実施	P12、P14、 P17
	労働安全衛生 ◎ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減	創業研究所で不休の労働災害が 1 件発生 能代工場では休業・不休の労働災害が各 1 件発生	P13 ~ P17
営業部門	環 境 ◎ 効率的な運転で燃費向上 目標: 前年度燃費より 1% 改善 (前年度 12.4.km/ℓ) ◎ 省エネ活動: 空調等節電	営業車両燃費: 12.7km/ℓ、2012 年度より燃費を 2 % 改善 本社・支店エネルギー使用量: 568Kl、2012 年度より 7% 削減	P10、P18
	社会貢献活動の推進 ◎ 地域貢献活動 ◎ MR の普通救命講習受講	各事業所周辺の清掃活動などを通じて社会貢献活動を実施 MR の普通救命講習の受講を進める	P18 ~ P19
	労働安全衛生 ◎ 事故率 5% 以下への具体的検討と実施 車両事故の削減: 事故率 20% 未満	2013 年度車両事故: 176 件発生 (50% 以上有責事故) 事故率: 18.7%	P10 P18 ~ P19



☆トピックス KPI (Key Performance Indicators : 主要業績評価指標について) ☆

生物多様性の保全の為に、地球温暖化ガス(CO₂)削減をKPIに設定しています。

杏林製薬各事業所と関係するグループ会社によるCO₂削減プロジェクトを推進し、毎年2回CO₂削減に向けた会議を実施しています。

基準年度と排出量：＊2009年度 ＊【21,099 t】

中長期目標値：＊2015年度 ＊【15,824 t】(基準年度25%削減→HOPE100ステージⅠ出口目標)

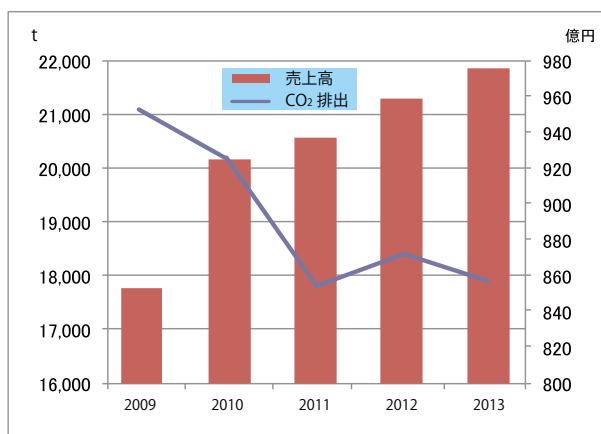
年度毎の目標値と実績は以下のとおりです。(CO₂排出量は定期報告書で報告した数値です。)

年 度	＊2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	＊2015年
目 標 (t)	＊【21,099】	20,219	19,339	18,459	17,579	16,699	＊【15,824】
排出量 (t)	21,099	20,187	17,815	18,417 (17,182)	17,919 (15,891)		
総売上(億円)	853	925	937	959	976		

2013年度の全社使用エネルギー(原油換算)：7,367kl(前年比93.0%)

2013年度のCO₂排出量は前年比498 t減少しました。原子力発電が停止し、電気事業者のCO₂排出係数が大幅に増加しております。原子力発電稼働時の推定排出量は15,891 tとなりました。

売上高とCO₂排出量



基準年度である2009年度と比較して2013年度は以下の結果となりました。

1. CO₂ 排出量：15.1% 削減

2. 売 上 高：14.4% 増加

2013年度は売上高の増加にも関わらず、CO₂排出量は削減されました。

今後も持続成長を継続しつつ、計画的に省エネルギーとCO₂排出削減に取り組んでまいります。

全社対応

環 境

○ 改正省エネ法の対応

2013 年度は 2013 年 7 月に定期報告書と中長期計画書を提出し、法的な対応を行いました。また CO₂ 排出量の削減策を検討するために、CO₂ 削減プロジェクトミーティングを 2 回／年実施し、杏林製薬各事業所と関係するグループ会社と共に対策案を検討し、更に各事業所の設備等を見学することにより CO₂ 削減に関する情報共有をいたしました。

○ カーボンオフセット印刷の導入

2011 年度より、一部印刷物にマイナスカーボンプリンティングシステムを導入いたしました。このシステムを導入することで、印刷物の発注と共に、CO₂ の削減と節電に貢献することができます。2013 年度は 789kg の CO₂ を削減しました。

*マイナスカーボンプリンティングシステム：リユース可能な CTP 版「マイナスカーボンプレート」を使用することで CO₂ 削減に貢献できる印刷システムです。

社会貢献活動の推進

○ ひまわりプロジェクトの参加

東日本大震災発生後、震災復興・環境緑化支援民間プロジェクトである「ひまわりプロジェクト」へ 2011 年度から参加しました。2013 年度も創薬研究所・開発研究所で 600 本のひまわりの苗をつくり、宮城県名取市へ寄附いたしました。寄附の際は、仙台支店の社員がイベントに参加し、市民と共に苗を植え付けました。

労働安全衛生

○ 緊急時の社員安否確認システムの確立

2012 年度に震災をはじめとする災害時の社員安否確認ツールとして、安否確認システムを導入しました。2013 年度は同システムの実効性を向上させるために定期的に訓練を行っています。

○ 緊急時初動対応手順書（ERP）の導入

2012 年度は災害発生時の安全確保と二次災害防止を目的とした手順書を本社で作成しました。

2013 年度は各工場・研究所への展開を進めています。

○ 労働災害の発生状況について

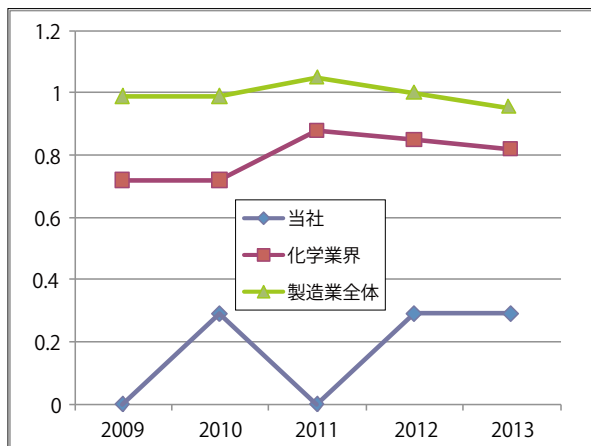
休業労災が 1 件発生しました。休業を伴わない労働災害事故は 2 件発生しました。いずれも、各事業所で適切に対応し、再発防止策を実施しました。その他、労働安全衛生では特殊健康診断を実施し社員の健康管理を実施しています。

年度	労災件数	通院のみ	休業 1～3 日	休業 4 日以上	延損失日数	従業員数
2009	18	18	0	0	0	1,724
2010	16	15	1	0	0	1,804
2011	32	32	0	0	0	1,798
2012	27	26	0	1	25	1,797
2013	20	19	0	1	37	1,780

○当社の労働災害の度数率・強度率について

当社は、労働災害防止の取り組みにより度数率・強度率とも、製造業全体の水準を大きく下回っています。
また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

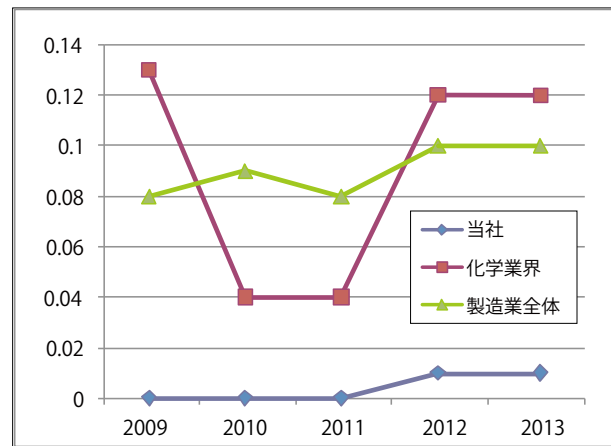
○ 度数率



年度	当社	化学業界	製造業全体
2009	0.00	0.72	0.99
2010	0.29	0.72	0.99
2011	0.00	0.88	1.05
2012	0.29	0.85	1.00
2013	0.29	0.82	0.94

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（災害発生の頻度を表す）
算出方法 = 労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数 × 1,000,000

○ 強度率



年度	当社	化学業界	製造業全体
2009	0.00	0.13	0.08
2010	0.00	0.04	0.09
2011	0.00	0.04	0.08
2012	0.01	0.12	0.10
2013	0.01	0.12	0.10

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す）
算出方法 = 延労働損失日数 / 延実労働時間数 × 1,000

研究開発部門・製造部門

環 境

○ CO₂ 排出量削減について

「2015年度までに2009年度比25%削減」を目標として2013年度も省エネルギー化された設備の導入、事業所毎の節電活動を継続してきた結果、CO₂排出量は16,607 tとなりました。電気使用量・燃料（重油・灯油）の使用量についても削減する事ができました。（原油換算で6,796 k l、前年7,272 k l）。

○ 廃棄物の削減について

廃棄物最終処分率は、4.1%と目標の廃棄物最終処分量5%以下を達成しました。しかし廃棄物発生量が761 t（前年735 t）と増加しました。

営業部門

環境

○ CO₂ 排出量削減について

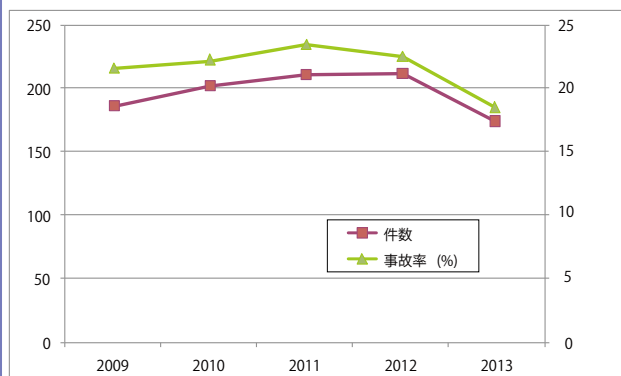
CO₂ 排出量を抑えるため、2013 年度は効率的な運転による営業車両の燃費向上（1 台あたり前年度燃費より 1% 改善：12.4km → 12.5km）を目標に取組みを進めてきました。年度平均で 12.7km/ℓ（2% の燃費改善）と目標を達成することができました。営業車両にハイブリット車両の導入やエコドライブの推奨など、環境に配慮した対策を進めています。

労働安全衛生

○ 車両事故の削減について

2013 年度は、駐車場内での後進駐車車の徹底、交差点内での安全確認の徹底、新入社員への研修強化など新たな対応策を実施したことで、結果として車両事故件数（50% 以上有責事故）は 176 件となり、前年度の 212 件から削減できました。今後も一層の取り組み強化により車両事故発生を削減していきます。

車両事故件数（当方責任 50% 以上）物損事故のみも含む



年度	2009	2010	2011	2012	2013
件数	186	202	211	212	176
事故率 (%)	21.3	22.4	23.3	22.8	18.7

本社部門

環境

○ 新本社移転について

本社部門ではオフィス移転をおこない耐震対策と省エネ対策を強化しました。職場環境のリスクアセスメントを行うことで、職場環境を向上しました。

また本年度は新オフィスでの電気使用量等の把握を進めていきました。

労働安全衛生

○ 心身のリフレッシュについて

本社社員の健康管理への取組みとしてストレッチなどの体験を通じた健康セミナーを本社内にて実施しました。ノー残業ディの実施、VDT障害対策などの対応を実施しました。

○ 防災体制の強化

緊急時初動対応訓練をグループ各社と合同で行い、防災対策を強化しました。
また新本社の現状にあわせて緊急時初動対応手順書を改訂しました。

☆ 環境に対する継続的取り組みと自己評価 ☆

取り組み目標	達成手段	2013 年度計画 (数値目標含)	2013 年度実績	自己評価	記載頁	
1. 地球温暖化防止 (CO ₂ 削減と省エネ)	新規設備投資による燃料使用量削減 (原油換算)	7,900 k l (2012 年度実績)	7,367kl(93.2%)	★★★	7, 32	注 1
	エコカー導入による燃費向上と排ガス削減	919/930 (98.8%、2012 年度実績)	940 / 949(99.1%)	★★★	18	
	CO ₂ の総排出量の削減	17,579 トン	17,919 トン	★★	7	
2. 廃棄物発生量の削減	排出総量の削減	735 t (2012 年度実績)	761 t	★	6, 33, 35	
	リサイクル促進	47% (2012 年度実績)	64%	★★★	35	
	最終処分量	37 t (2012 年度実績)	31 t	★★★	6, 33, 35	
	最終埋立量ゼロへの挑戦 (最終処分率)	5.0% 以下	4.1%	★★★	6, 33, 35	
3. 化学物質の管理	PRTR法対象物質管理と見直し	9.9 t (2012 年度実績)	9.7 t	★★★	32, 37	注 2
4. 大気汚染の防止	ボイラー・発電機よりのばいじん・ NO _x 、SO _x 排出量測定管理	継続測定	基準値以下	★★★	36	
5. 水質汚濁の防止	排水処理棟、一次処理装置による処置、 pH、BOD・SS管理	継続測定	基準値以下	★★★	36	
6. 森林破壊の防止	用紙リサイクル、再生紙使用、業務のペー パーレス化促進	53 t (2012 年度実績)	52 t	★★★	37	
7. オゾン層破壊の防止	特定フロン使用機器の全廃	2010 年度全廃完了	—	★★★	11	注 3
8. 地盤沈下の防止	地下水利用を削減し 上水利用率向上	71.1% (2012 年度実績)	74.4%	★★	32, 34	
9. 騒音の削減	定期測定	継続測定	基準値以下	★★★	37	
10. 生物多様性の保存	地域住民とのコミュニケーション (地域貢献活動)	事業所個別に計画	全事業所計画達成	★★★	6, 7, 25 ~ 29	
11. 環境情報の公開	環境報告書の作成、公開	8 月 WEB 公開	8 月 WEB 公開	★★★	本書	

自己評価について：★★★達成 ★★ほぼ達成 ★更なる取り組みが必要

注 1) KPI です。別途 5 年計画と実績を 7 頁に掲載。(Key Performance Indicators: 主要業績評価指標)

注 2) PRTR物質の大気、土壌への排出はゼロです。

注 3) 生物多様性の保全について

当社は生物多様性の保全が国際的な重要課題であると認識しております。2012 年 1 月に日本製薬工業協会が「生物多様性に関する基本理念と行動指針」を公表しました。当社の環境に対する継続的な取り組みは製薬協の行動指針に適合しております。

岡谷工場の諏訪アダプトプログラム(24 頁)や能代工場の旧金勇の保存活動(24 頁)等の各地事業所での社会貢献活動など地域社会とのコミュニケーションを図る取り組み、及び従業員に対する環境教育を継続的に実施してまいりました。

今後も、国際社会や国内の動向、先進企業の取り組みに関する情報収集を継続し、当社としての生物多様性の保全への取り組み強化に努めてまいります。



ガス吸収式急速式冷凍機

臭化リチウム-水を冷媒としておりフロンを使用しておりません。動物実験室の冷房に使用しております。



コ・ジェネシステムとは？

灯油発電機で作った電気を利用し、そのとき発生した廃熱をエアコンなどの動力源に再利用するシステムです。

研究部門の取り組み

創薬研究所・開発研究所は栃木県最南端の野木町に立地し、渡良瀬川・思川・巴波川の三つの河川が合流する渡良瀬遊水地に隣接しています。渡良瀬遊水地は、東京ドーム 708 個分に相当する日本最大の遊水地であり、首都圏有数の動植物の宝庫として、また人々のレクリエーションスポットとして大きな役割を果たしています。

創薬研究所



医薬品の探索・創薬研究
栃木県下都賀郡野木町野木2399-1

開発研究所



医薬品の研究開発
栃木県下都賀郡野木町野木1848

環境では、全ての研究所において、自然の博物館と言われている渡良瀬遊水地周辺の汚染防止に協力すると共に、地域社会環境・地球環境の保全に努める活動を推進しています。

労働安全衛生では、そこで働く人々が安心して研究開発に打ち込めるよう、安全で快適な職場環境の整備に向け活動しています。

1. 主な取り組み

環 境

1. 研究事業所共通

- ☐ 創薬研究・開発研究におけるエネルギー合理化による CO₂ の削減
廃棄物の削減と適正管理及びリサイクルの推進
- ☐ 業務の効率化による資源の節減
- ☐ 方法及び代替品の技術検討による化学物質の使用量削減、大気汚染防止
- ☐ 節水や事務用紙の使用量削減、再生紙の使用による省資源化
- ☐ 車通勤の CO₂ 排出量を削減



2. 創薬研究所

- ☐ 化合物・試薬等の使用量抑制
- ☐ 廃棄物埋立処分率削減

3. 開発研究所

- ☐ PRTR・廃棄物発生量抑制
 - ◎ PRTR 排出量削減
 - ◎ 廃棄物発生量の削減
- ☐ 夏場の節電対策

社会貢献活動の推進

1. 研究事業所共通

- ☐ 地域貢献活動の実施
- ☐ 周辺住民とのコミュニケーション向上

労働安全衛生

1. 研究事業所共通

1. 休業労災 0 件の実現 (3 日以上 の通院労災を 0 件とする)

- ☐ ヒヤリハット、ニアミス事例の職場での報告と EHS 推進委員会での水平展開
- ☐ 安全行動の啓蒙と教育実施
- ☐ 事業場における労働者の心の健康づくり

2. 危険評価点数の低減

- ◆ Aランク→Bランク以下 (目標案件の 100%)
- ◆ Bランク→Cランク以下 (目標案件の 50%)
- ☐ 危険評価点数削減のための各種施策実施

<実施例>

転落防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
 設備改善や保護具着用による化学物質の人体への障害防止
 手順書の作成・教育による動物使用時の傷害防止
 ウォーキングラリーへの参加による健康増進 等

3. 防災対策への意識強化と危険の低減

- ☐ 防災訓練に加えて、大地震を想定した訓練を実施
- ☐ 棚やロッカー類の耐震強化
- ☐ 非常用品の備蓄 (非常食、毛布、非常用トイレ等)
- ☐ 災害対応マニュアルの改訂

2. 2013 年度活動結果

環境

1. 創薬研究所

1. CO₂ 排出量の削減

- ☐ CO₂ 排出量 2012 年度 : 2,806 t → 2013 年度 : 3,092t
 (2013 年度は電気事業者の CO₂ 排出係数が 0.525 と前年に比べ大幅に増加したため、電力使用による CO₂ 排出量が増加となりました)
- ☐ ノーマイカーデイ (車通勤を自転車や徒歩の通勤にする活動) による CO₂ 削減
 目標 : 10.0 t 以上削減 → 2013 年度削減量 : 10.7 t

2. 廃棄物の適正管理

- ☐ 廃棄物総排出量 2012 年度 61 t → 2013 年度 70 t

3. 使用試薬等データベース化の推進及び管理

- ☐ プライマー、ベクター、抗体及び合成試薬等の効率的且つ有効な使用によるムダの削減

2. 開発研究所

1. CO₂ 排出量の削減

- ☐ CO₂ 排出量 2012 年度 : 2,935 t → 2013 年度 : 3,441t
 (2013 年度は電気事業者の CO₂ 排出係数が 0.525 と前年に比べ大幅に増加したため、電力使用による CO₂ 排出量が増加となりました)
- ☐ ノーマイカーデイ (車通勤を自転車や徒歩の通勤にする活動) による CO₂ 削減
 目標 : 9.5 t 以上削減 → 2013 年度削減量 : 12.7 t

2. 廃棄物の適正管理

- ☐ PRTR 排出量：目標：5 t 以下とする → 2013 年度実績 2.5 t
- ☐ 廃棄物発生量：目標：75 t 以下とする → 2013 年度実績 63 t

3. 業務改善による省資源化

- ☐ 有機溶剤の使用量削減やより安全な化学物質の使用に向けた 11 件の業務改善を実行

3. その他 (研究事業所共通)

1. 下記について取り組み、いずれも年間目標を達成しました

- ☐ 事務用紙の使用量削減
- ☐ グリーン用品の使用推進

社会貢献活動の推進

1. 研究事業所共通

1. 地域貢献活動の実施

- ☐ アルミ缶を回収して車椅子を寄付 (今年は施設からの要望で液晶テレビに変更しました)
- ☐ エコキャップ回収活動
- ☐ ひまわりプロジェクト参加による種蒔き、苗の育成
- ☐ 研究所内での献血活動

2. 周辺住民とのコミュニケーション向上

- ☐ インターンシップ受入、職場見学・体験学習支援
- ☐ 視覚障害者施設の販売支援
- ☐ 新研究所建設に際し周辺環境に配慮を行い、住民の方への説明会を実施

2. 創薬研究所

1. 地域貢献活動の実施

- ☐ 野木神社祭礼への協力支援
- ☐ 「全国友の会 小山支部」へあんずの実を提供

2. 周辺住民とのコミュニケーション向上

- ☐ 桜の一般公開

3. 開発研究所

1. 地域貢献活動の実施

- ☐ 野木町産業祭への参加
- ☐ 国道 4 号線周辺清掃活動

2. 周辺住民とのコミュニケーション向上

- ☐ 納涼祭の開催

労働安全衛生

1. 研究事業所共通

1. 労働災害

- ☐ 2013 年度：目標 (3 日以上 の 通院 労災 0 件) を達成。

2. 危険点数の削減 (2013 年度対策実施件数)

	Aランク→Bランク以下	Bランク→Cランク以下
創薬研究所	対象項目なし	6 項目のうち 6 項目達成
開発研究所	対象項目なし	3 項目のうち 3 項目達成

製造部門の取り組み

能代工場

医薬品原薬・医薬品の製造
秋田県能代市松原1

能代工場は1995年に操業開始しました。秋田県北部沿岸地域に立地し、世界遺産の白神山地と一級河川の米代川、そして海の幸を提供してくれる日本海と自然環境に恵まれた環境です。2006年4月には「人に優しく、環境に優しい」をコンセプトとした新製剤棟を新設し主力工場として稼働しました。省エネルギーと地球環境に配慮した活動を目指し、当地の自然を守っていくことが当工場の社会的使命と考えています。

岡谷工場

医薬品の製造
長野県岡谷市湖畔1-14-3

岡谷工場は1948年に操業開始し、天竜川の源となる長野県諏訪湖畔に位置しています。蓼科高原、白樺湖、車山、霧ヶ峰高原、諏訪湖など四季の彩りに恵まれた、澄んだ空気と水と緑にあふれ、自然環境に恵まれた岡谷市の一角にあります。諏訪湖周辺では諏訪湖の水質保全と周辺の美化を守る「諏訪湖アダプトプログラム」活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションと社会への貢献に努めています。

1. 主な取り組み

環 境

両工場共通

1. 電力・燃料の削減（エネルギー合理化や生産性向上による無駄の排除）

- ☐ 照明・空調機器などの運転方法改善
- ☐ 省エネタイプの製造設備の導入
- ☐ ユーティリティの検討

2. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

3. CO₂ 排出量の削減

- ☐ 設備導入等による省エネ効果向上
- ☐ 自家発電装置及びボイラーの効率的な運転
- ☐ ノーマイカーディの実施やアイドリングストップ運動の実施
- ☐ マイバッグによるレジ袋の削減

労働安全衛生

両工場共通

1. 休業労災0件をめざす（休業労災：1日以上の休業を休業労働災害とする）

- ☐ ヒヤリ・ハット、ニアミス事例の職場での報告とEHS推進委員会での水平展開
- ☐ 安全行動の啓蒙と教育実施
- ☐ 当社以外の作業従事者（請負社員・派遣社員）へ社員と同レベルの安全教育実施

2. 危険評価点数の低減

- ◆ Aランク→Bランク以下 (目標案件の 100%)
- ◆ Bランク→Cランク以下 (目標案件の 50%)

□ 危険評価点数削減のための各種施策実施

<実施例>

- 転倒防止柵・手すりなどの設置による傷害防止
- 保護具着用と手順書作成・教育による機械等操作時の傷害防止
- 安全体操・教育などによる VDT 作業障害の防止
- ウォーキングキャンペーンへの参加による健康増進 等



3. 災害対策 (地震、津波など) の実施

- 棚やロッカー類の耐震強化
- 非常用品の備蓄 (非常食、救助用具、毛布等)
- 防災対応マニュアルの改訂と災害模擬訓練の実施

2. 2013 年度活動結果

環境

1. 能代工場

□ CO₂ 排出量 2012 年度 : 9,750 t → 2013 年度 8,813 t

□ 製造ロットあたりの CO₂ 排出量の抑制

目標 : 6.0 t / 1ロット以下とする → 2013 年度実績 : 3.8 t / 1ロット

<主な取組>

- ・スクラバーの改良 (内臓ポンプ数削減) による電力量削減
- ・造粒乾燥作業時間の短縮による電力量削減
- ・給湯器、給茶機のタイマー管理による使用制限
- ・蒸気配管の保温強化による電力量削減
- ・外灯の長期消灯などによる電力量削減
- ・工場全体での空調管理の徹底による電力量を削減
(夏場 : 28℃設定、冬場 : 20℃設定 厳守)

□ 廃棄物発生量の削減

目標 : 2013 年度目標 : 260 t (2012 年度実績 : 245 t) → 2013 年度実績 : 146 t

<主な取組>

- ・リサイクル資料の回覧による、リサイクル効率アップへの意識向上
- ・紙のリサイクル (古紙分別)
- ・PTPシートに使用される、アルミ使用量の削減
- ・廃棄物扱いしていたカートン (試験用) をリサイクル品とした

2. 岡谷工場

□ CO₂ 排出量 2012 年度 : 1,430 t → 2013 年度 : 1,262 t

□ 電気使用量の削減

目標 : 2009 年度比 17%削減 (152 万 kwh → 126 万 kwh)

2013 年度実績 : 146 万 kwh (20 万 kwh 増加)

□ 廃棄物量の削減

目標 : 302 t 以下の廃棄物削減を目標

2013 年実績 275t (25 t 減少)

☐ リサイクル量の増加

目標：2012 年度発生量 147 t 以上

2013 年実績 169 t（22 t 増加：目標達成）

社会貢献活動の推進

1. 能代工場

- ☐ 工場周辺地域の美化活動
- ☐ 風の松原を守る市民ボランティア大会
- ☐ 能代クリーンアップごみゼロ運動（能代市役所周辺）
- ☐ COK20（能代市が管理する歴史的建造物である旧料亭金勇の清掃及び保存活動）
- ☐ 能代クリーンアップ活動（国道7号線沿い）
- ☐ 地域とのコミュニケーション（桜を観る会、納涼祭等）
- ☐ 工場見学の受入（中学生、高校生、大学生、山本地域振興局 他）
- ☐ 工場内での献血協力

2. 岡谷工場

- ☐ 諏訪湖周辺の美化活動
 - ・諏訪湖アダプトプログラム
 - ・岡谷湖畔公園清掃活動
- ☐ エコキャップ回収活動
- ☐ ノーマイカーデーによる CO₂ 削減活動
- ☐ インクカートリッジのリサイクル
- ☐ マイバッグ使用による CO₂ 削減活動
- ☐ 地域とのコミュニケーション（納涼祭、岡谷ものづくりフェアへの出展）

労働安全衛生

1. 両工場共通

1. 労働災害

- ☐ 目標：2013 年度休業労災 0 件
 - ◎岡谷工場→労災 0 件を達成
 - ◎能代工場→休業労災が 1 件、休業を伴わない労災が 1 件発生
- 再発防止策を実施し、工場内の推進委員会で事故の報告を行い、また両工場で情報共有と水平展開を図りました。

2. 危険点数の削減（2013 年度対策実施件数）

	A ランク→B ランク以下	B ランク→C ランク以下
能代工場	対象項目なし	14 項目のうち 13 項目達成
岡谷工場	対象項目なし	20 項目のうち 19 項目達成

営業部門の取り組み

当社では 2004 年 7 月に業界初の支店・営業所での環境マネジメントシステム ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。
MR 活動においても、環境と労働安全衛生に配慮しています。

全国 13 支店、87 営業所（2013 年度末現在）



1. 主な取り組み

環 境

1. 効率的運転で燃費向上（目標：前年度燃費より 1% 改善）

- ☐ エコ運転の実施啓発
- ☐ エコカー、ハイブリッドカーの積極的な導入
（弊社エコカーの定義：2005 年基準 75% 以上低減車）

社会貢献活動

1. 環境と社会への貢献活動

- ☐ 地域貢献活動の実施
- ☐ スマイル活動と連動した活動の実施

2. MR の普通救命講習受講

労働安全衛生

1. 車両事故率（50% 以上有責）20% 未満達成

- ☐ 事故防止対策の実施

2. 感染予防対策

- ☐ 医療機関訪問が主な業務であるため感染予防対策を徹底

3. その他

- ☐ 防災対策
- ☐ 健康増進策

2. 2013 年度活動結果

環 境

1. 効率的運転で燃費向上

- ☐ 2012 年度：12.4km/ℓ → 2013 年：12.7km/ℓ
2012 年度より燃費が 2% 向上し、目標としていた前年比 1% 向上を達成
- ☐ ハイブリッド車両導入：2014 年 3 月末 = 296 台（2013 年 3 月末 = 116 台）
- ☐ エコドライブの励行：荷物積み下ろし時のアイドリングストップ
車両への不要物積載の禁止と整理整頓

社会貢献活動

1. 地域貢献活動の実施

- ☐ 支店周辺の清掃活動等を実施

2. スマイルプロジェクトと連動した活動の実施

- ☐ ペットボトルキャップ収集
- ☐ 社内で募金活動
- ☐ 使用済み切手の収集

3. MRの普通救命講習の受講

- ☐ 全MRの普通救命講習受講を推進 (約 90%)

労働安全衛生

1. 車両事故率 (50% 以上有責) の削減

- ☐ 2013 年度車両事故率 (50% 以上有責)

2012 年度 : 22.8% (212 件) → 2013 年度 : 18.7% (176 件)

2012 年度より事故率が 4.1% (36 件) 減少し、目標としていた 20% 以下を達成しました

- ☐ 車両事故防止の対策を実施

◎ 交通安全キャンペーンの継続、全国交通安全運動と連動した取り組み

◎ 意識高揚のための交通安全ステッカー

◎ 交通安全ビデオによる搭乗者教育

◎ ヒヤリハット報告の積極的提出と情報共有

◎ 新入社員向け特別運転教習訓練

◎ 豪雪地帯転勤者への特別運転訓練

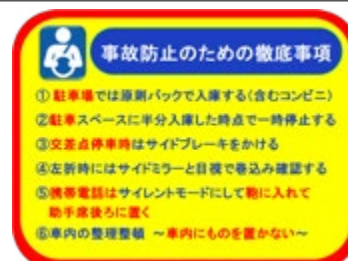
◎ リアコーナースエンサーの導入

◎ 事故多発者へのドライブレコーダーの導入

◎ 車両使用者にわかりやすい内容で作成した安全運転徹底事項の浸透



毎年新入社員研修の一環として、特別運転教習訓練を実施



2. 感染予防対策

- ☐ 医療機関訪問が主な業務であるため感染予防対策を徹底

◎ 帰社時の手洗い・うがいの励行

◎ 冬季のインフルエンザワクチン接種 (一部補助) による感染予防対策実施

◎ リスク管理委員会の感染予防通達の徹底

3. その他

- ☐ 防災対策

◎ 防災訓練の実施

◎ 避難経路図の掲示と教育

- ☐ 健康増進策

◎ ウォーキングキャンペーン

◎ 健康相談

◎ メンタルヘルス対策

本社の取り組み

本社においては、支店営業所とともに 2004 年 7 月に環境マネジメントシステム規格 ISO14001 及び、労働安全衛生マネジメント規格 OHSAS18001 の認証を取得しました。

本社



東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

1. 主な取り組み

環 境

1. エネルギー使用量削減と使用状況の把握
 - ☐ 本社移転によるエネルギー使用量の削減
 - ☐ 新本社のエネルギー使用状況の把握
 - ☐ 省エネ活動
2. 紙の使用量を把握・削減

社会貢献活動

1. 環境と社会への貢献活動
 - ☐ 地域貢献活動の実施
 - ☐ スマイル活動と連動した活動の実施
2. 上級救命講習の受講

労働安全衛生

1. 自然災害への体制強化
 - ☐ 防災訓練への参加
 - ☐ 新本社ビルの避難経路徹底
 - ☐ 備蓄品設置場所の周知
2. 本社ビルでの安全性の向上
 - ☐ EHS推進委員会による職場巡視の実施
3. 気分リフレッシュによる快適な職場環境を実現
 - ☐ 本社会議室での健康セミナーの実施
 - ☐ フリーウェアデーとノーネクタイの実施
 - ☐ ノー残業デイの実施



2. 2013 年度活動結果

環 境

1. エネルギー使用量削減と使用状況の把握

- ☐ 2012 年度 本社電力使用量：67.0 万 kwh → 2013 年度：52.6 万 kwh
前年度から 14.4 万 kwh の電気使用量を削減

2. 紙の使用量を把握・削減

- ☐ 2012 年度 用紙使用量：306 万枚 → 2013 年度：263 万枚
新たなコピー機導入により、効率的な印刷が可能になり前年度より 43 万枚削減

社会貢献活動

1. 地域貢献活動の実施

- ☐ 本社周辺の清掃活動を年 2 回実施

2. スマイルプロジェクトと連動した活動の実施

- ☐ ペットボトルキャップ収集
☐ 社内で募金活動
☐ 使用済み切手の収集

3. 上級救命講習の受講

- ☐ 2013 年度：5 名受講
緊急時における人命救助・二次災害防止の体制を強化するため、自衛防災隊を中心に 45 名が認定証を有しています

労働安全衛生

1. 自然災害への体制強化

- ☐ 2013 年 5 月に耐震対策が強化されたビルへ本社を移転
☐ 全従業員に対して新本社ビルの避難経路について教育
☐ ビル管理会社の防災訓練に年 2 回参加
☐ 新本社ビルでの備蓄品設置場所について EHS 推進委員会を通じて社員へ周知



2. 本社ビルでの安全性向上

- ☐ EHS 推進委員会による職場巡視を毎月実施
危険予知活動を行い、本社ビル内でのリスクを軽減



3. 気分リフレッシュによる快適な職場環境を実現

- ☐ 社員向け健康セミナー「メタボ解消の身体活動」を本社会議室にて実施
☐ 週 1 日のフリーウェアデーと年間を通したノーネクタイの実施
☐ 週 1 日のノー残業デーの実施

その他の取り組み

1. メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスの取り組みについては、管理者研修のなかで管理者の部下に対する配慮や注意すべき点・メンタル疾患の具体的な症状について理解し、予防・早期発見に努めています。そして、社員に疾患が発生したときには、所属部署・人事部・精神科産業医・主治医と連携をとり、健康の回復、職場復帰・再発防止に努めています。

また、新入社員教育やイントラネットにより、各自が心の健康を維持するための基本的な知識習得や情報提供を進めており、外部 EAP とも契約して、社員およびご家族の方が気軽に相談できる体制を整えています。

2. 子育て支援対策

当社は、社員の仕事と家庭（子育て等）が両立しやすい環境をつくるために、様々な施策を実施しています。また、仕事と家庭（子育て等）を両立する社員を職場全体で理解し、協力し合ってサポートしていける体制作りにも取り組んでいます。

1. 支援金

- ☐ 出産育児支援金
- ☐ 入学支援金

2. 育児休業制度

- ☐ 子どもが1歳6ヵ月に達するまで、または1歳到達直後の3月末日まで休業可能

3. 出産・育児に配慮した柔軟な勤務制度

- ☐ 短時間勤務制度・・・妊娠中および子どもが3歳到達直後の3月末日まで、勤務時間を30分単位2時間まで短縮可能
- ☐ 所定外労働の免除・・・子どもが3歳到達直後の3月末日まで

4. 子の看護休暇制度

- ☐ 小学6年生までの子で、看護・予防接種・健康診断が必要な場合、子1人につき年間5日、2人以上のとき年間10日取得可能
- ☐ 積立年休（有給）を利用可能

5. 配偶者出産休暇

- ☐ 配偶者の出産時に2日の特別有給休暇が取得可能

6. 再雇用（ジョブ・リターン）制度

- ☐ 妊娠・出産・育児のため退職した社員の再雇用



3. 健康保険組合の保健事業

当社は労働安全衛生活動の全社展開に当たり、杏林健康保険組合の保健事業と連携を取り、従業員や家族の健康管理のための生活習慣病健診、被扶養者健診等、下記の健康増進策を図りました。

1. 健診項目の充実 (基本的な健診項目に下記項目を追加)

- ☐ 生活習慣病健診・・・ 胃部検査 (X線検査、ペプシノーゲン検査)、腹部超音波検査、大腸癌検査、眼底検査、前立腺検査 (PSA検査)、喀痰検査
- ☐ 婦人科健診・・・ 子宮癌検査、乳癌検査
- ☐ 被扶養者健診・・・ 生活習慣病健診 (喀痰検査除く) 及び婦人科健診に同じ
- ☐ 特定健康診査・特定保健指導・・・ 40 歳以上の社員・被扶養者の健診及び保健指導
- ☐ ファミリー健康相談・・・ 育児・急病・慢性病・精神衛生等の 「電話健康相談」と専門医を紹介する「ベストドクターズ・サービス」
- ☐ インフルエンザ予防接種補助・・・ 予防接種の一部費用を補助 (社員及び家族)

2. 疾病予防面

- ☐ 禁煙キャンペーン・・・ 65 日間連続禁煙者に「達成賞」贈呈
- ☐ ウォーキングキャンペーン・・・ 目標達成者に「記念品」贈呈
- ☐ プール補助事業・・・ 施設と特約を結び、従業員・家族のプール利用を促進



3. 在宅療養支援面

- ☐ 保健師派遣事業・・・ 在宅高齢者のご家庭を訪問し、健康相談、福祉情報の提供

1. 当社のコンプライアンスに対する取り組み

基本方針

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

また製薬企業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献する価値ある存在でなければなりません。

そして製薬企業の一員として当社は、『生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。』という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

取り組み

高い倫理観をもって企業行動を展開するために、「杏林製薬企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置しています。

- (1) 「杏林製薬企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。
- (2) 「コンプライアンス・ガイドライン」は、「杏林製薬企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。
- (3) 企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2004年12月よりコンプライアンス委員会を設置しました。

また、各拠点にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

教育研修

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内教育を行っています。

- (1) コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別教育（ex. 新入社員教育、新任管理者研修等）において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓蒙活動を展開する。
- (2) 各部門で実施する職能教育等において、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図る。
- (3) 毎年11月をコンプライアンス強化月間として、全社でその浸透に努めております。

2. 当社のリスク管理に対する取り組み

基本方針

リスク発生の予防に係る管理体制の整備及び発生したリスクに適切に対応し、会社と与える損害を最小にすべく、リスク管理を推進します

取り組み

リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため「リスク管理委員会」を設置いたしました。同委員会の役割は以下のとおりです。

- (1) 潜在リスクを把握するため、関係各部に対しリスクの調査を指示する。
- (2) 潜在リスクが顕在化しないように、関係各部に対し各種規則・業務マニュアル類の整備、従業員への教育・啓蒙等必要な予防措置をとらせる。
- (3) やむなく発生したリスクによる損害を最小にするため、関係各部に対しリスク発生時対応マニュアルの整備、対応訓練（シミュレーション）の実施、保険への加入等必要な措置をとらせる。

教育研修

各事業所にリスク管理推進担当者を配置し、リスクに対する意識の向上と浸透を図っています。

東日本大震災被災地への復興支援

2011 年度から東日本大震災の被災地へ元気を届けるプロジェクト「ひまわりプロジェクト」に協賛しました。2013 年度は、創薬研究所、開発研究所で 600 ポットのひまわりの苗を育成し、その苗を宮城県名取市へ寄附しました。2014 年度も継続実施を致しました。



社会とのコミュニケーション

観桜会

創薬研究所では毎年、樹齢40年を超える桜を見る会を実施しており、今年も多数の方が訪れました。能代工場でも工場敷地内に近隣の皆様をご招待し、桜を見る会を実施しました。



△ 創薬研究所



△ 能代工場

地域産業祭への参加

工場、研究事業所では、地域の産業祭に参加し、当社についてのご理解をいただいております。



開発研究所では毎年地元野木町の産業祭に参加し、杏林製薬のPRと共に、子供達とゲームで一時を過ごしました。



能代工場では能代産業フェアに2007年度より参加し、毎年多数の方々のご来場で大盛況となっております。

納涼祭

開発研究所および各工場では、毎年納涼祭に周辺住民の皆様にご好評を頂いております。また、当社への理解を深めて頂く機会にもなっております。



△ 開発研究所



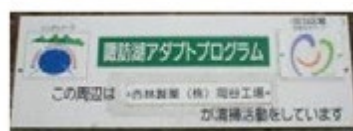
△ 能代工場



△ 岡谷工場

地域清掃活動（生物多様性の保存活動の一環です。）

岡谷工場



岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受持ち、美化活動を行なう諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）の契約を締結し、活動は10年以上継続しています。2011年度には諏訪湖アダプトプログラム実行委員会より感謝状を頂きました。また、社員一斉参加により湖畔公園の清掃も引き続き実施しました。

能代工場

能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている“風の松原”の清掃ボランティア活動に参加しています。また、能代市が管理する歴史的建造物である旧料亭金勇の保存活動として、清掃ボランティアを実施しています。



旧金勇（かねゆう）

開発研究所



開発研究所では、会社周辺及び渡良瀬遊水地内の清掃活動を実施しました。

本社



本社がある御茶ノ水では、年2回千代田区の清掃ボランティア活動を実施しており、有志従業員が自主的に参加しています。

その他の活動

支店



営業所の中には、ケアハウスなどでボランティア活動に参加したところもあります。

創薬研究所



創薬研究所では、杏の木を「全国友の会 小山支部」へ提供し、地域の植樹に貢献しています。

工場・研究所・本社見学の受け入れ



中学生、高校生、大学生、秋田県山本地域振興局他の見学を毎年受け入れております。

2013年度は4事業所（能代工場、岡谷工場、開発研究所、本社）にて地球環境に配慮した最新の設備、技術やオフィスを紹介させていただきました。

インターンシップ



毎年 研究所、工場、営業所にて大学生、高校生を受け入れインターンシップを実施しております。

医療用医薬品の研究開発、製造、医療機関での適正使用の情報提供など、現場の魅力や雰囲気を直接に感じてもらっています。

くすり情報センター

患者様や一般消費者、医療従事者（医師、歯科医師、薬剤師等）の方々からのお問い合わせに直接、電話口でお答する「くすり情報センター」を設置しております。
（平日のみ：9時～17時、フリーダイヤル：0120-409341）

スポーツイベントの支援



当社は人々の健康を促す数々のスポーツイベントに協賛しています。特に、子供たちが心身ともに健康に育つよう、応援しています。

毎年恒例の「しもつけサッカーセミナー in 野木」は、好評のうちに14年目となり、今年もたくさんの子どもたちの応募をいただきました。指導はTVや雑誌、新聞でお馴染みのスポーツジャーナリスト中西哲生氏にお願いしました。絶妙なトークと優れた指導で、子供たちを楽しませてくれました。

キョーリンスマイルプログラム

<主な取り組み>

- ・募金活動（ユニセフへ寄付）
- ・使用済み切手収集（ジョイセフへ寄贈）
- ・ペットボトルキャップ収集
（途上国へワクチンを送る）
- ・買い物時にエコバッグ使用
- ・事業所地域周辺の清掃活動
- ・アルミ缶の回収（車椅子の寄贈）
- その他

当社は、2007年度よりコーポレートブランド活動の一環として、「笑顔のある社会」の実現を目指して、全社員一丸で具体的な活動を行うことになりました。活動をキョーリンスマイルプログラムと名づけ、「健康はキョーリンの願いです」をテーマに、各職場で様々な取り組みを展開しています。



10 2014 年度全社重点目標

2014 年度
重点目標

スローガン：EHS - HOPE100

杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として
成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

全社目標

環境

- ◎ エネルギーの合理化(CO₂ 削減)
- ◎ 廃棄物の削減

社会貢献活動

- ◎ 社会貢献活動の推進と周辺住民とのコミュニケーション

労働安全衛生

- ◎ 休業労災ゼロの実現

2014 年度も節電対策を継続し、全社で省エネ活動に努めていきます。工場・研究所では設備導入やエネルギーの合理化を進めていき、支店・営業所では空調の温度設定などビルエネルギーの省エネ活動に取り組んでいきます。また CO₂ 排出量の削減策を検討するために、引き続き CO₂ 削減プロジェクトにて、杏林製薬各事業所と関係するグループ会社と共に対策案を検討し、CO₂ 削減に取り組んでいきます。

2012 年度から健康生活応援企業としてより一層「社会貢献活動」を拡充すべく、工場・研究所で実施している地域貢献活動（地域清掃活動、納涼祭など）は継続していきます。それに加え、支店・営業所でも社会貢献活動を実施する体制を整え、2013 年度からMRへの普通救命講習を行い、2014 年度は継続的な教育を行うことにより全社での社会貢献活動の推進に取り組んでいきます。

製造部門
研究開発部門

環境

- ◎ CO₂ 削減策の検討と実行
2015 年度までの目標：対 2009 年度比 25% 減。
2014 年度目標 16,699 t 以下の CO₂ 排出量を削減する
- ◎ 廃棄物の低減 最終処分率 5% 以下

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動
- ◎ 周辺住民とのコミュニケーション

労働安全衛生

- ◎ 休業労災ゼロ
- ◎ 労働安全衛生対策の履行による労災の削減

2014 年度の CO₂ 排出量（工場、研究事業所計）は、2010 年度に掲げたスローガン「EHS-HOPE100」を基に、2015 年度の目標値に向けた省エネ対策を実施していきます。廃棄物最終処分率は 5% 以下を目標とします。

各事業所で実施している社会貢献活動の内容について全社共有を図り、全社で社会貢献活動に積極的に取り組みます。

労災事故は、休業労災ゼロを目指します。

営業部門

環境

- ◎ 効率的運転で燃費向上（目標：前年度平均燃費より1%改善）
- ◎ 省エネ活動
- ◎ 日々の営業活動を通じた環境と社会への貢献

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動の実施
- ◎ MRの普通救命講習受講

労働安全衛生

- ◎ 事故率 5% 以下への具体策検討と実施
- ◎ 車両事故の削減：事故率 20% 未満
- ◎ 重大事故の低減、無事故日数の継続

2014 年度は CO₂ 排出量削減のため、引き続きエコドライブ等の推進により前年度平均燃費1%改善を目標とします。

車両事故については事故率 20% 未満を目標とし、事故多発者への指導、教習やドライブレコーダーの導入などを実施していきます。特に新入社員に関しては研修中での実車教習時間の増加を実施していきます。2014 年度も関係部署と協力し事故削減に向け新たな取り組みを実施します。

本社部門

環境

- ◎ エネルギーの合理化継続実施

社会貢献活動

- ◎ 地域貢献活動

労働安全衛生

- ◎ 防災体制の強化
- ◎ 健康確保の活動
- ◎ 快適なオフィスの維持

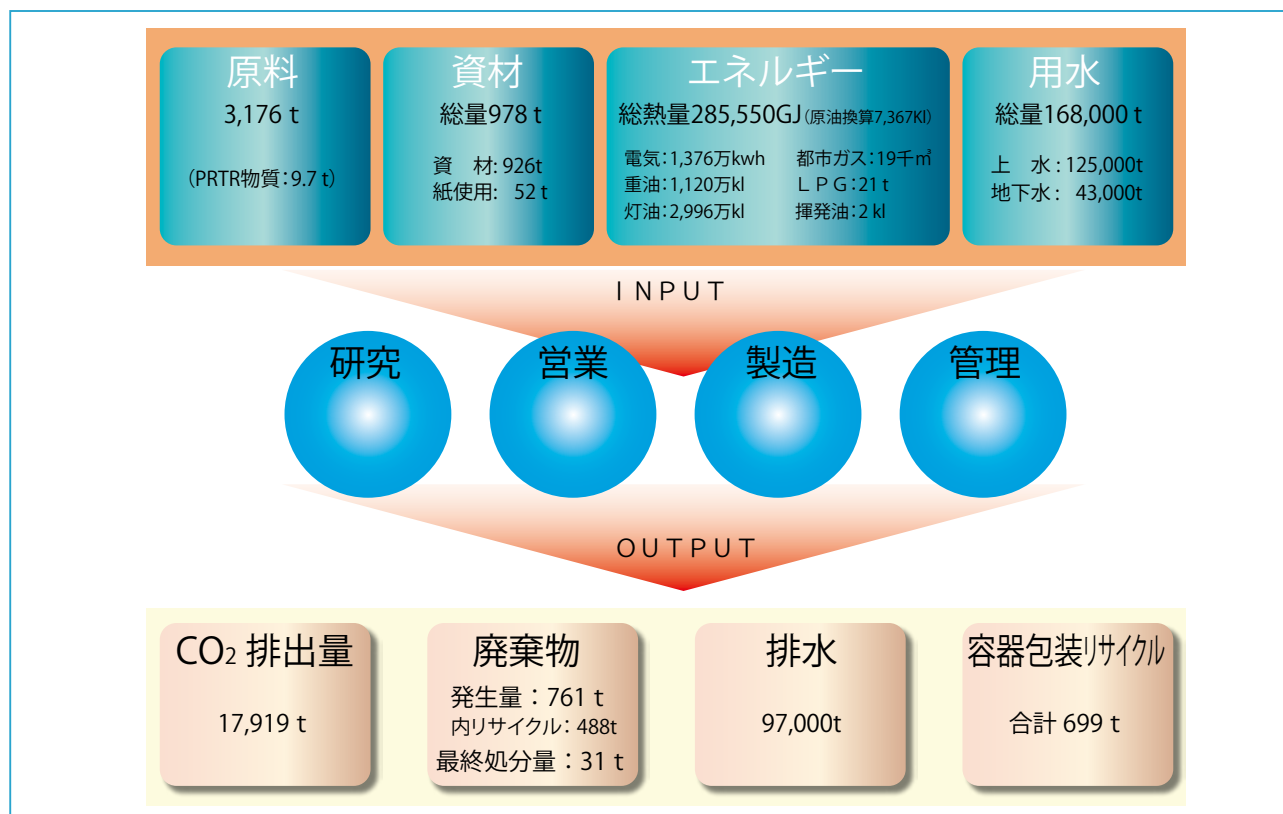
本社は 2013 年 5 月に新社屋へ移転しました。2014 年度は、新社屋のエネルギー使用状況にあわせた節電対策等の活動を引き続き実施していきます。

本社防災訓練の実施・ビル管理会社の防災訓練に参加することにより、新本社ビルでの避難経路徹底と備蓄品場所の周知、自衛消防隊員の訓練を実施していきます。

社員の健康維持管理についても、各種体組成計付のヘルスメーターや血圧計の設置、本社内での健康セミナー開催（年 2 回）により、各自が手軽にできるヘルスチェック、メタボ対策等を実施していきます。

11 マテリアルフローと環境会計

マテリアルフロー (2013 年)



環境会計 2013 年度分

(単位: 万円)

環境保全コスト	設備投資額	維持管理費用
公害防止コスト	271	9,665
地球環境保全コスト	9,215	1,003
資源循環コスト	0	4,443
上下流コスト	0	1,936
管理活動コスト	0	5,186
研究開発コスト	0	0
社会活動コスト	0	273
環境損傷コスト	0	0
合 計	9,486	22,506

(単位: 万円)

環境保全経済効果	
廃棄物リサイクル収入	50.3
使用エネルギー節減	2,427
廃棄物売却収入	0
処理費用節減	245
合 計	2,722.3

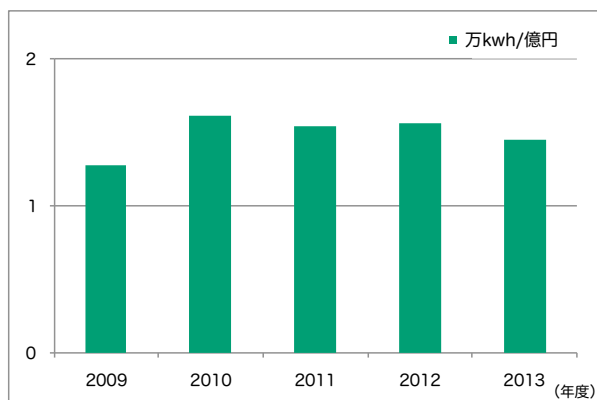
環境保全効果	指 標	単位	増減量	負荷量 (2013 年度)	負荷量 (2012 年度)
投入資源に関する効果	エネルギーの使用電気	万 kwh	-77	1,376	1,453
	燃料の使用 重油	千リットル	-35	1,120	1,155
	燃料の使用 灯油	千リットル	-319	2,896	3,215
	紙の使用	t	-2	52	54
	化学物質の使用	t	189	584	395
	溶媒の使用	t	-13	35	48
排出する環境負荷及び削減に関する効果	廃棄物の発生量	t	26	761	735
	大気への排出量	t CO ₂	-498	17,919	18,417
	同上 *	t NO _x	-3	87	90
	排出水	t BOD	-0.4	0.6	1
排出物のリサイクル効果	廃棄物のリサイクル量	t	140	488	348
	溶媒の使用リサイクル量	t	0	0	0
	総排水量	千 t	-18	97	115

12 環境に関するデータ

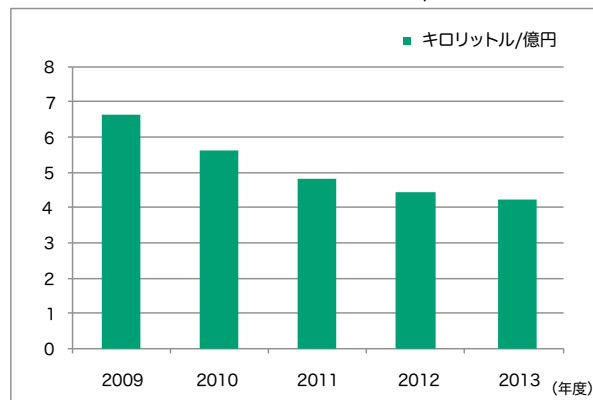
電力・燃料の推移

全社のデータ

全社の電力消費量/売上 (万kwh/億円)

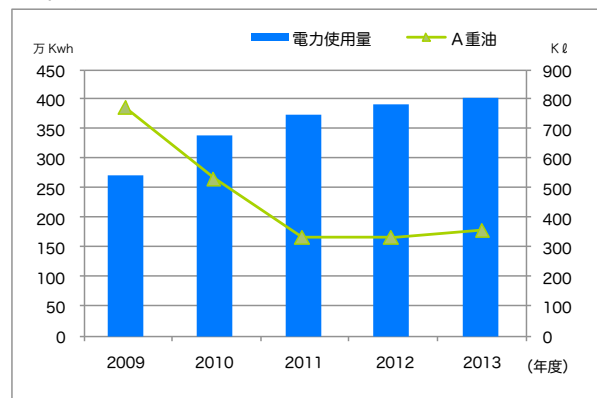


全社の燃料使用量/売上 (キロリットル/億円)

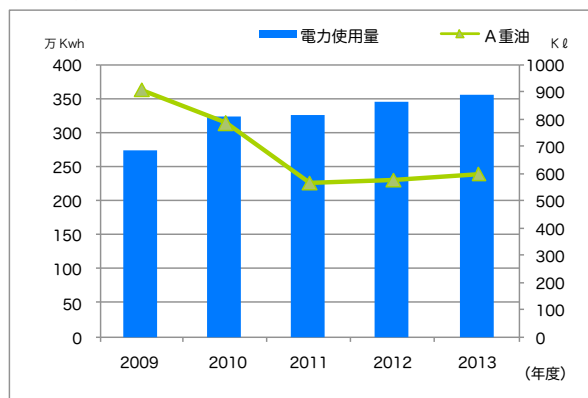


事業所毎のデータ

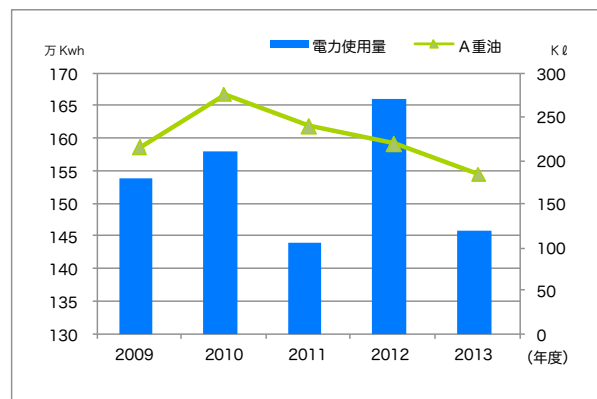
創薬研究所



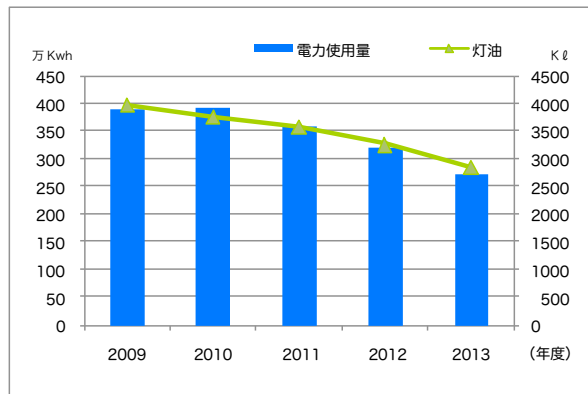
開発研究所



岡谷工場

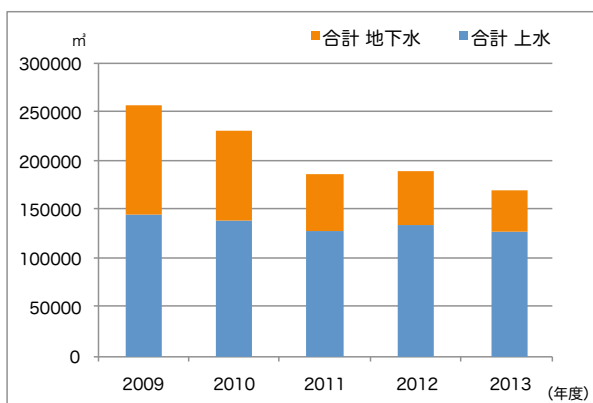


能代工場



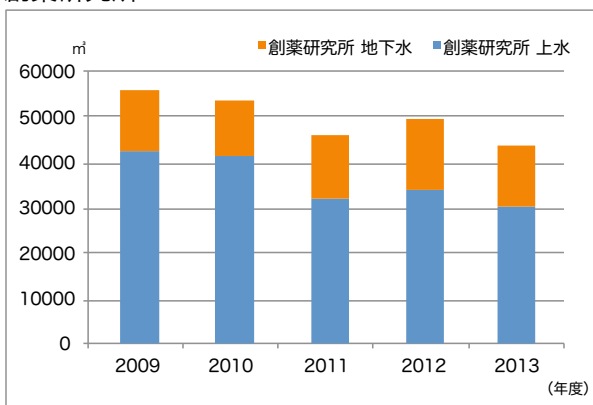
水使用量推移

全社のデータ

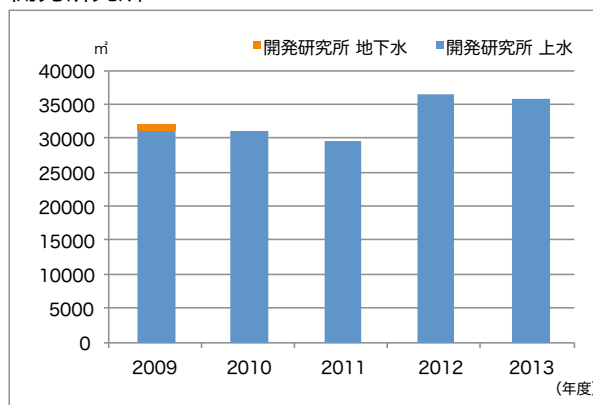


事業所毎のデータ

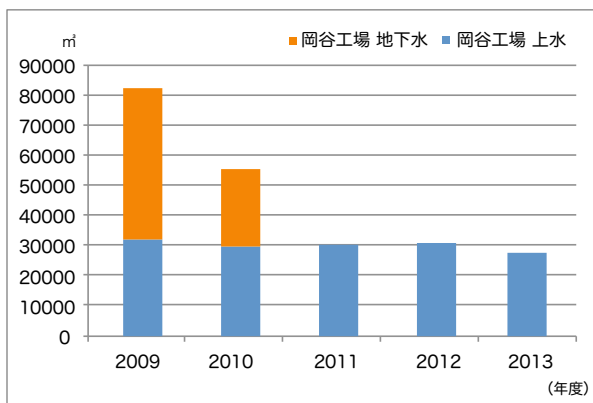
創薬研究所



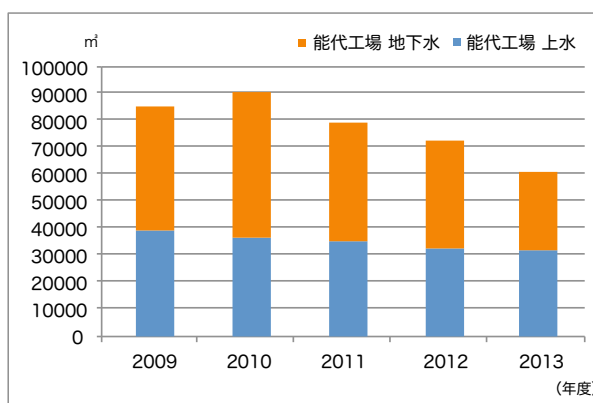
開発研究所



岡谷工場



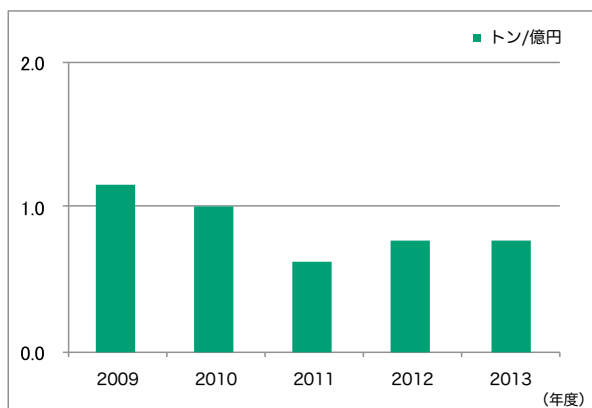
能代工場



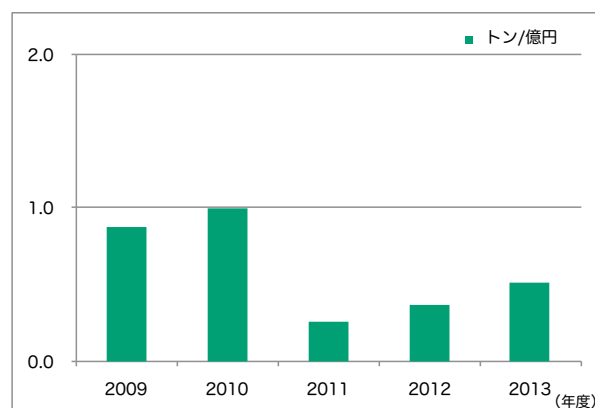
廃棄物発生量推移

全社のデータ

廃棄物発生量 t / 売上げ (トン/億円)

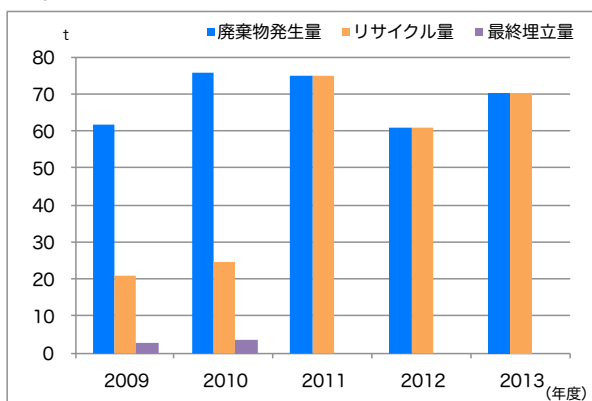


リサイクル量 t / 売上げ (トン/億円)

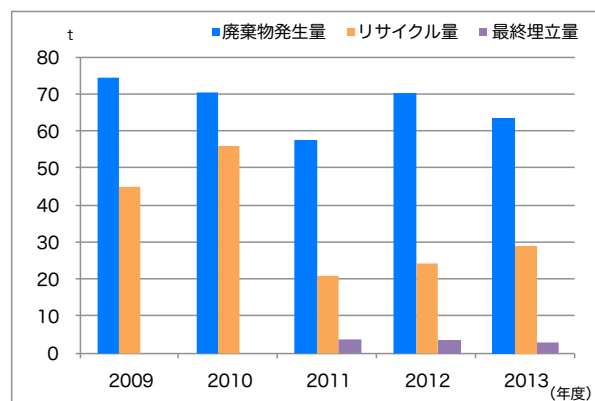


事業所毎のデータ

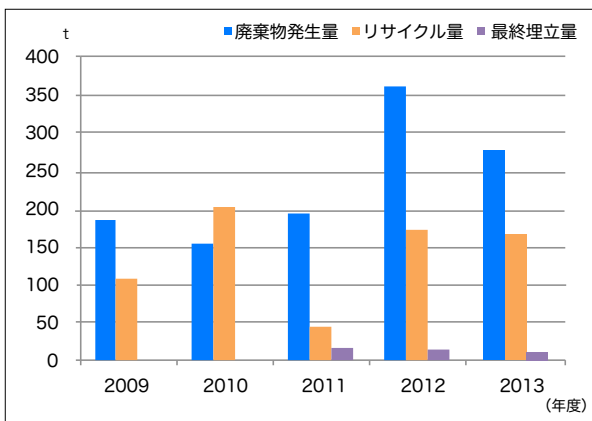
創薬研究所



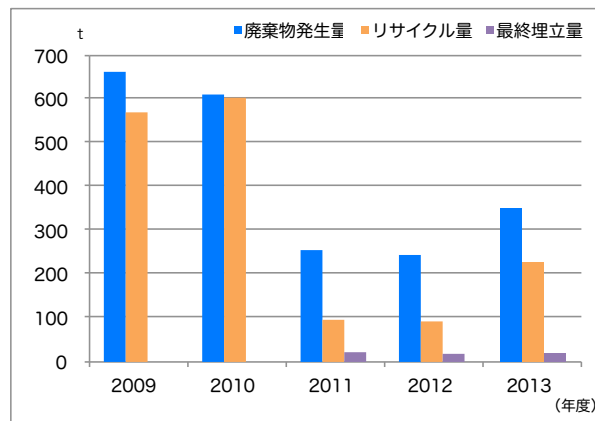
開発研究所



岡谷工場



能代工場



排水関係データ

事業所名	区分	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	規制値
創業研究所	PH	7.2	7.1	7.0	7.1	7.2	5.8～8.6
	BOD	1.3	1.7	2.5	1.7	1.4	25
	SS	4.2	5.6	2.3	1.5	1.2	50
開発研究所	PH	7.3	7.3	7.0	7.8	7.4	5.8～8.6
	BOD	1.0ppm 以下	1.0ppm 以下	1.0ppm 以下	1.0ppm 以下	1.1ppm	25
	SS	1.0ppm 以下	1.6ppm	3.0ppm	1.0ppm	1.0ppm	50
岡谷工場	PH	7.8	7.8	7.8	7.9	7.8	5.8～8.6
	BOD	4	3.5	2.1	2.5	14.7	300
	SS	13	19	8.9	4.8	14.2	300
能代工場	PH	7.1	7.2	7.1	7.1	7.1	5.8～8.6
	BOD	8.3	12.5	3.9	6.1	10.6	300
	SS	4.2	7.1	3	6.4	7.5	300

ばい煙関係データ

事業所名	種類	測定項目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	規制値
創業研究所	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.0037	0.0052	0.0028	0.0022	0.0012	0.5
		NO _x ppm	79	79	78	72	91	260
		SO _x N m ³ /H	0.011	0.0198	0.0143	0.0123	0.0098	14.5
	発電機 注 1)	ばいじん g/N m ³	0.046	0.052				0.1
		NO _x ppm	650	553				950
		SO _x N m ³ /H	0.011	0.012				14.5
開発研究所	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.004	0.004	0.004	0.002	0.003	0.5
		NO _x ppm	88	101	84	89	89	260
		SO _x N m ³ /H	0.014	0.04	0.018	0.007	0.009	14.5
	発電機 注 2)	ばいじん g/N m ³	0.031					0.1
		NO _x ppm	692					950
		SO _x N m ³ /H	0.015					14.5
岡谷工場	ボイラー	ばいじん g/N m ³	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.3
		NO _x ppm	55	55	62	43	62	180
		SO _x N m ³ /H	0.023	0.022	0.019	0.020	0.026	4.91
能代工場	ボイラー AKP 棟	ばいじん g/N m ³	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.3
		NO _x ppm	66	50 未満	50 未満	50 未満	50 未満	なし
		SO _x N m ³ /H	0.075 未満	0.075 未満	0.087 未満	0.085 未満	0.075 未満	1.4
	ボイラー PAK 棟	ばいじん g/N m ³	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.3
		NO _x ppm	66	92	58	58	61	なし
		SO _x N m ³ /H	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	1.4

注 1) 創業研究所は 2011 年度より自家発電機を撤去いたしました。

注 2) 開発研究所は 2010 年度より自家発電機を撤去いたしました。

用紙使用量推移

年度	集計範囲	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
枚 数	工場・研究施設・本社	576 万枚	546 万枚	498 万枚	498 万枚	516 万枚
	全社（支店含む）	1,320 万枚	1,384 万枚	1,343 万枚	1,343 万枚	1,317 万枚

PRTR 使用量推移

化学物質名	使用量					PRTR 法の 届け出対象品目
	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	
アセトニトリル	2.3 t	1.8 t	1.6 t	2.0 t	1.9 t	○
エチレンオキサイド	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
ホウ素及びその他の化合物	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
エチレングリコール	0.000 t	0.16 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	—
キシレン	0.3 t	0.1 t	0.1 t	0.2 t	0.1 t	○
クロロホルム	1.3 t	1.6 t	1.0 t	1.1 t	1.5 t	○
ピペラジン	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	○
トルエン	0.4 t	0.6 t	0.4 t	0.3 t	0.4 t	○
N,N-ジメチルホルムアミド	0.3 t	0.6 t	0.3 t	0.1 t	0.1 t	○
ジクロロメタン	1.0 t	1.1 t	0.6 t	0.5 t	0.6 t	○
N-ヘキサン	—	5.9 t	5.4 t	5.7 t	5.0 t	○（2010 年～）
総量	8.8 t	5.5 t	11.8 t	9.9 t	9.6 t	

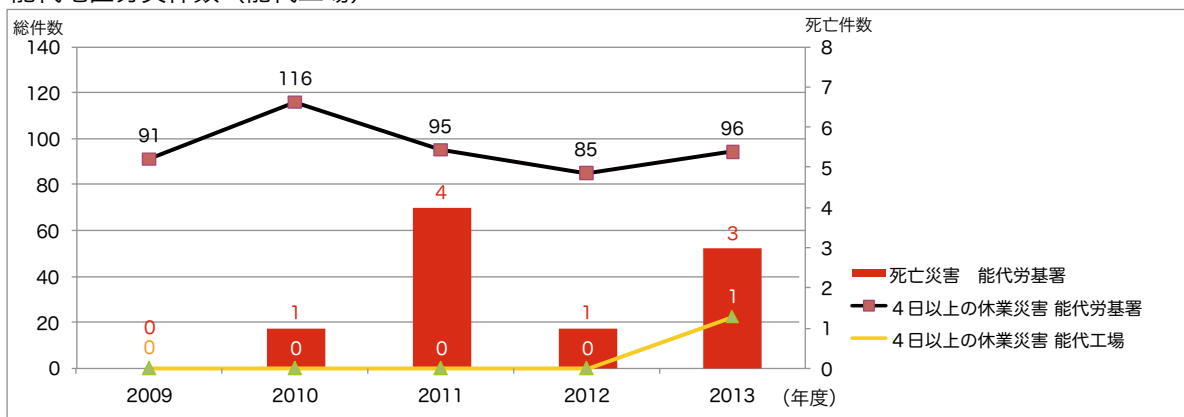
騒音関係測定データ

事業所名	規制値 (db)		2011 年度	2011 年度	2013 年度
創業研究所	昼	65 以下	46	45	44
	夜	50 以下	43	40	43
開発研究所	昼	65 以下	44	45	43
	夜	50 以下	40	42	44
岡谷工場	昼	70 以下	45	46	47
	夜	65 以下	45	43	43
能代工場	昼	65 以下	49	48	49
	夜	50 以下	44	44	44

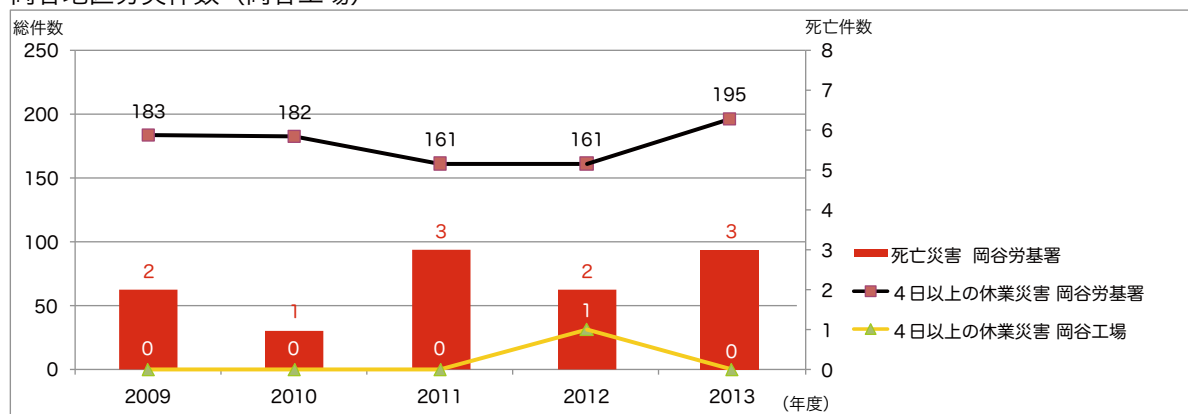
13 労災に関するデータ

工場・研究事業所所在地労災件数データ

能代地区労災件数（能代工場）



岡谷地区労災件数（岡谷工場）



野木地区労災件数（創薬研究所、開発研究所）

